

愛媛県孤独・孤立の実態把握に関する調査

調査報告書〔概要版（速報）〕

令和5年3月
愛 媛 県

I. 調査の概要

1 調査の目的

愛媛県における孤独・孤立の実態を把握し、関連行政諸施策の基礎資料を得ることを目的として実施。

2 調査の実施概要

(1) 調査の名称

愛媛県人々のつながりに関する基礎調査

(2) 調査の対象

愛媛県に居住する16歳以上の個人 2,000人

(3) 調査の方法

Webモニター調査

(4) 調査期間

令和4年12月27日（火）～令和5年1月5日（木）

3 調査事項

(1) 孤独に関する事項

孤独感（UCLA孤独感尺度・直接質問）、継続期間、これまでに経験したライフイベント（家族との離別・死別、人間関係の重大なトラブル等）、社会や他人とのかわり方の満足度

(2) 孤立に関する事項

外出頻度、外出目的、社会的交流（家族・友人とのコミュニケーション手段や頻度）、社会参加（活動への参加状況）、各種支援の状況

(3) その他関連事項

コミュニケーションツールの利用状況、不安や悩みの相談相手の有無、不安や悩みを相談する際の感情、心身の健康状態、コロナ禍におけるコミュニケーションの変化・生活の変化、孤独・孤立解消のきっかけ

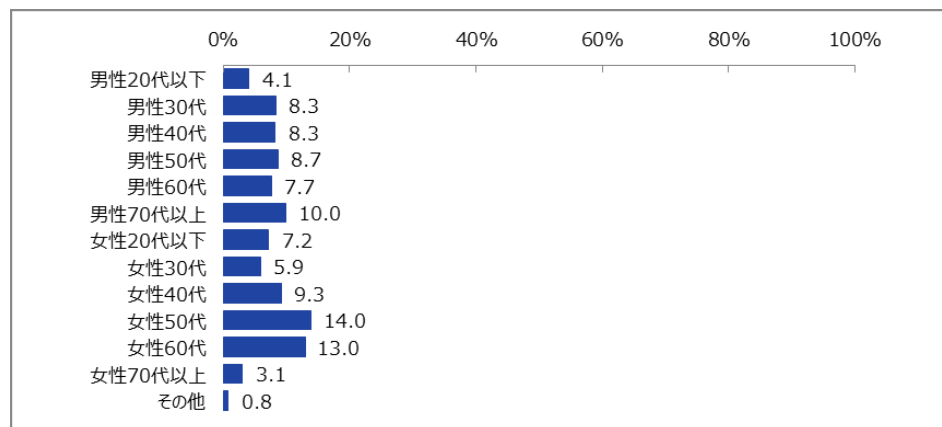
(4) 属性事項

年齢、性別、同居人の有無・数、就業状態、世帯の年間収入

II. 集計対象者数

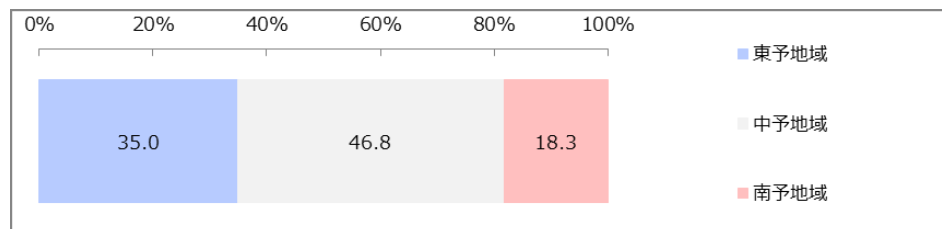
1 性年代

	n	%
全体	2000	100.0
男性20代以下	82	4.1
男性30代	166	8.3
男性40代	165	8.3
男性50代	173	8.7
男性60代	154	7.7
男性70代以上	199	10.0
女性20代以下	144	7.2
女性30代	117	5.9
女性40代	185	9.3
女性50代	279	14.0
女性60代	259	13.0
女性70代以上	61	3.1
その他	16	0.8



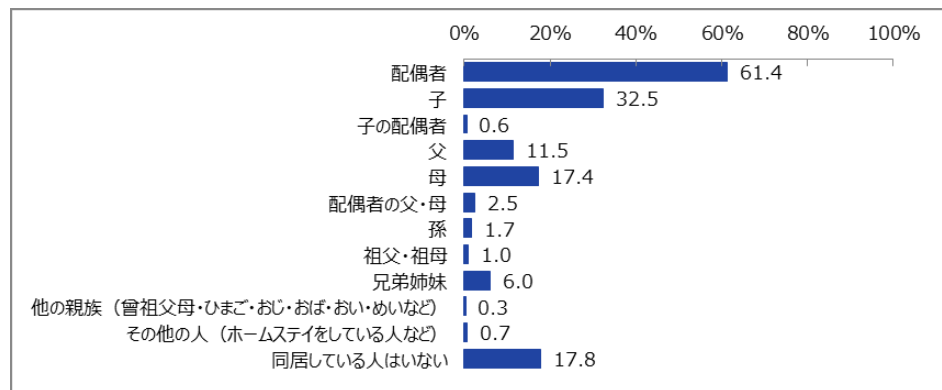
2 地域

	n	%
全体	2000	100.0
東予地域	700	35.0
中予地域	935	46.8
南予地域	365	18.3



3 同居人

	n	%
全体	2000	100.0
配偶者	1227	61.4
子	649	32.5
子の配偶者	12	0.6
父	230	11.5
母	347	17.4
配偶者の父・母	50	2.5
孫	34	1.7
祖父・祖母	19	1.0
兄弟姉妹	120	6.0
他の親族（曾祖父母・ひまご・おじ・おば・おい・めいなど）	6	0.3
その他の人（ホームステイをしている人など）	13	0.7
同居している人はいない	356	17.8



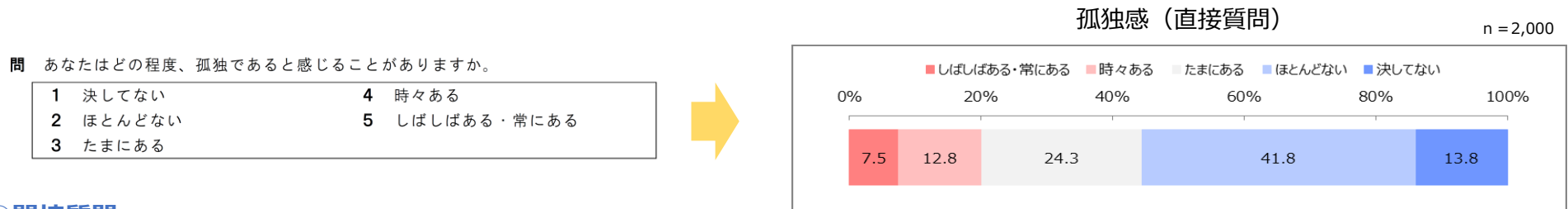
Ⅲ. 結果の概要

■ 孤独の把握方法・状況

孤独という主観的な感情をより的確に把握するため、この調査では2種類の設問を採用。

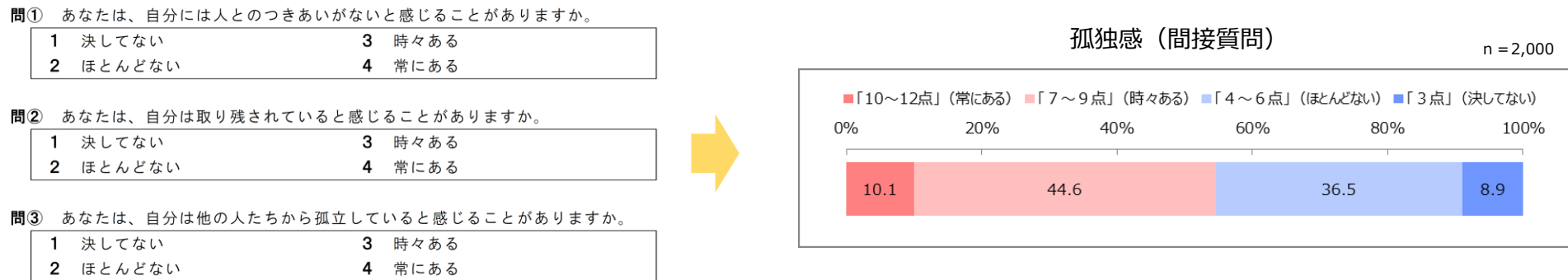
①直接質問

- 直接的に孤独感を質問。直接質問の結果、**孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は7.5%、「時々ある」が12.8%、「たまにある」が24.3%**であった。一方で孤独感が「ほとんどない」と回答した人は41.8%、「決してない」が13.8%であった。



②間接質問

- 孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定する「UCLA孤独感尺度」に基づく質問。3つの設問への回答を点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価。間接質問の結果、**合計スコアが「10～12点」の人が10.1%、「7～9点」の人が44.6%**であった。一方で「4～6点」の人が36.5%、「3点」の人が8.9%であった。



(参考) UCLA孤独感尺度

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の研究者が孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定しようと考案したもの。本調査では上記の3項目の設問について、それぞれ**4つの回答選択肢 (4件法) を設定**。「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点とし、その合計スコアにより孤独感の高さを測定。なお、調査によって尺度がアレンジされることがあり、英国では「しばしばある」(3点)、「時々ある」(2点)、「ほとんど・決してない」(1点)の3つの回答選択肢 (3件法) を設定。

Ⅲ. 結果の概要

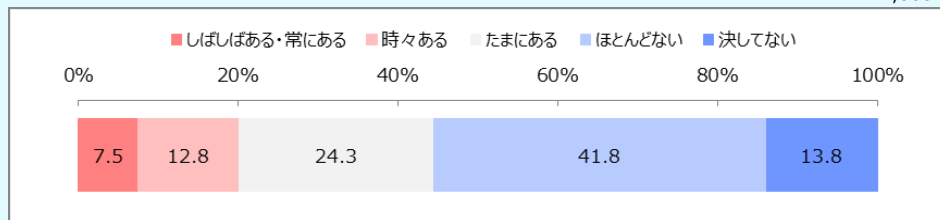
■ 孤独の状況（全国調査との比較）

①直接質問

- 直接質問を全国調査（令和3年実施）と比較した結果、**孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、県の方がやや上回る。**（県調査7.5%、全国調査4.5%）また、**「決してない」と回答した人の割合は、県の方が9.9ポイント低くなっている。**（県調査13.8%、全国調査23.7%）

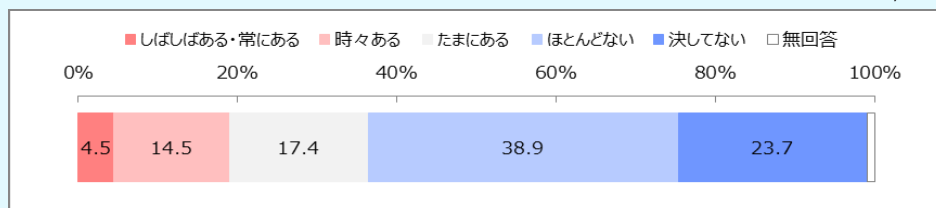
【愛媛県】

n = 2,000



【R3全国調査】

n = 11,867

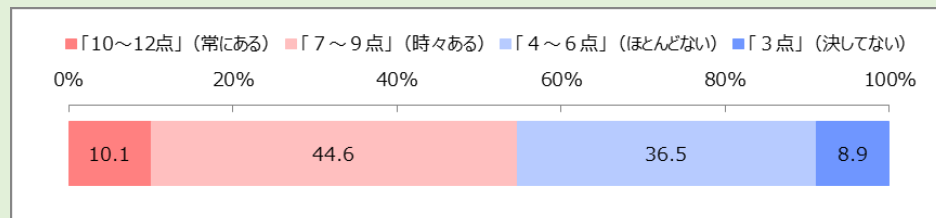


②間接質問

- 間接質問を全国調査（令和3年実施）と比較した結果、**合計スコアが「10～12点」の人は、県の方がやや上回る。**（県調査10.1%、全国調査6.3%）また、**「3点」の人は、県の方が9.6ポイント低くなっている。**（県調査8.9%、全国調査18.5%）

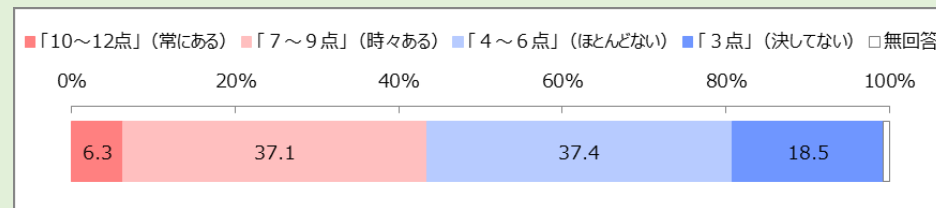
【愛媛県】

n = 2,000



【R3全国調査】

n = 11,867

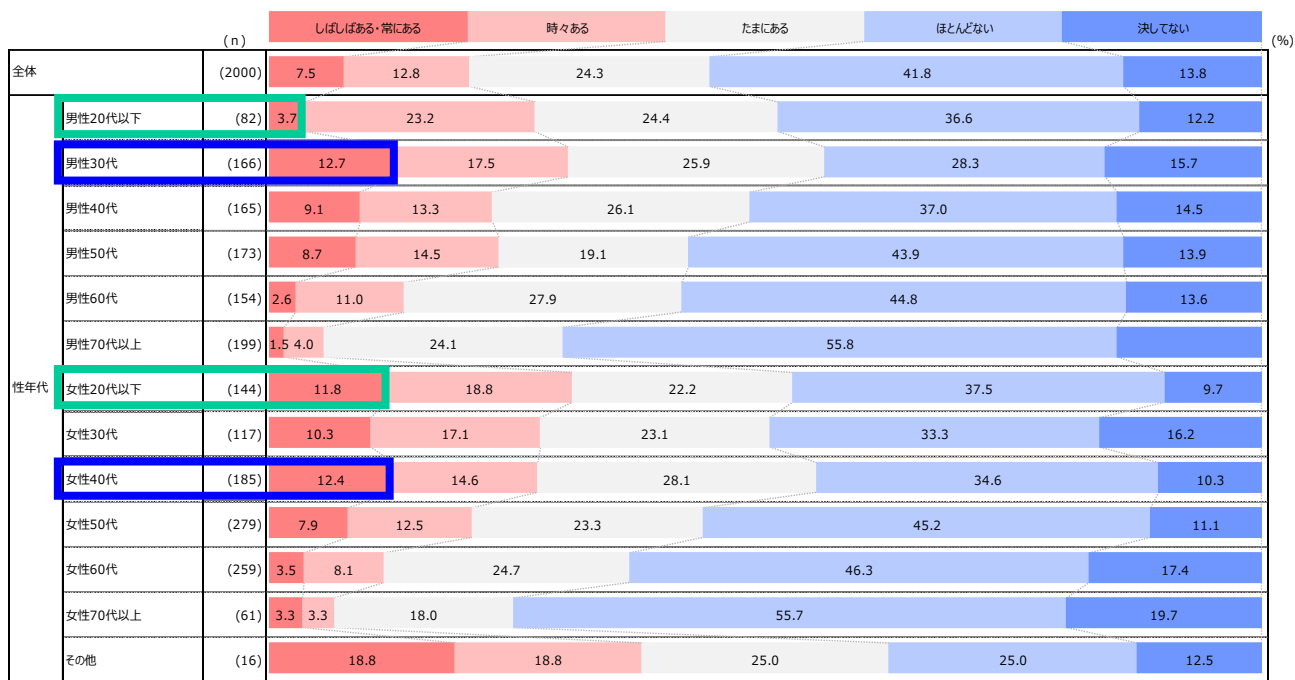


Ⅲ. 結果の概要

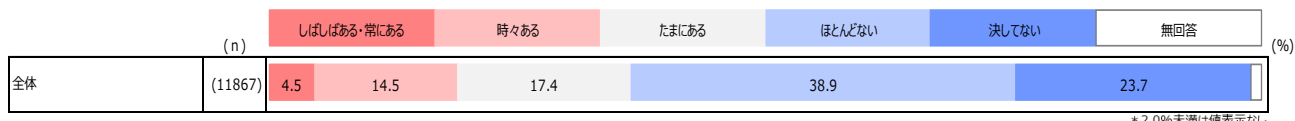
■ 孤独の状況（孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合）

- 直接質問を性年代別の割合でみると、**男性30代と女性40代が特に高い**。また、20代以下は女性の方が男性より高く、性別による差がみられる。一方、最も低いのは、男女共に70代以上であった。
- 男女ともにおおむね**年齢が下がるにつれて孤独感が高い**傾向がうかがえる。

孤独感（直接質問）【性年代別】



（参考）【R3全国調査】

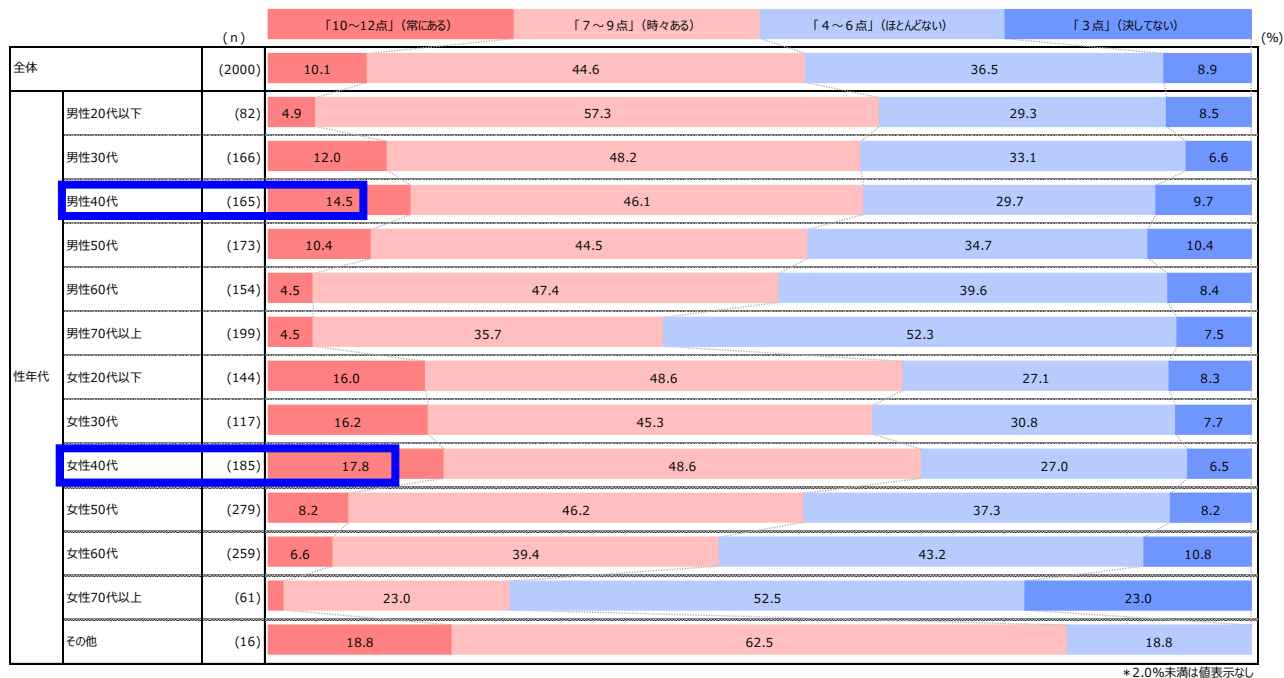


Ⅲ. 結果の概要

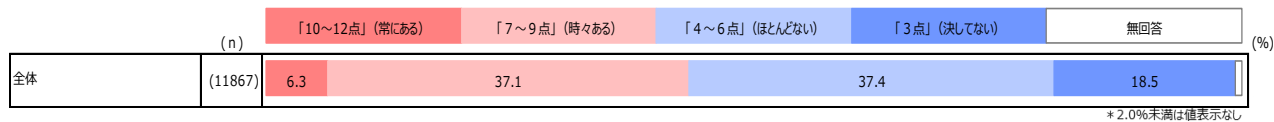
■ 孤独の状況（合計スコアが「10～12点」の人の割合）

- 間接質問を性年代別の割合で見ると、**男女ともに40代が特に高い**。男性は30～50代、女性は40代以下の年齢層で孤独感が高い傾向。一方、男性20代以下及び60代以上、女性70代以上は「10～12点」の割合が5%を下回る。

孤独感（間接質問）【性年代別】



(参考) 【R3全国調査】



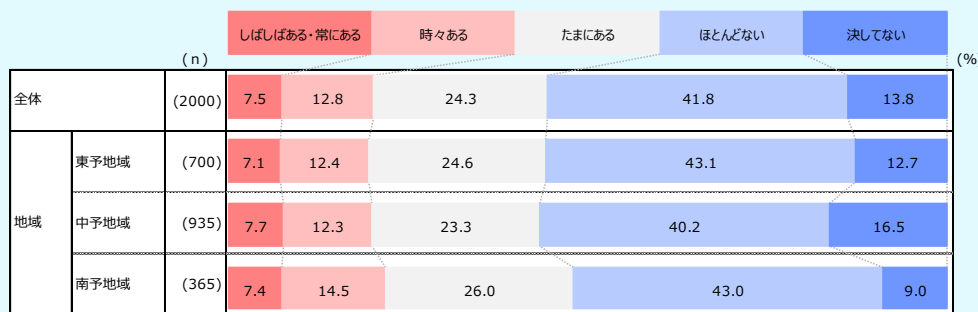
Ⅲ. 結果の概要

■ 孤独の状況

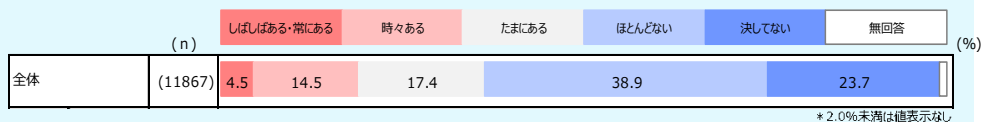
① 直接質問

- 直接質問の「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」と回答した人の合計を地域別でみると、**3地域で4割台**と同様の傾向がうかがえる。一方、「決してない」と回答した人は**中予地域**でやや高い。

【愛媛県・地域別】



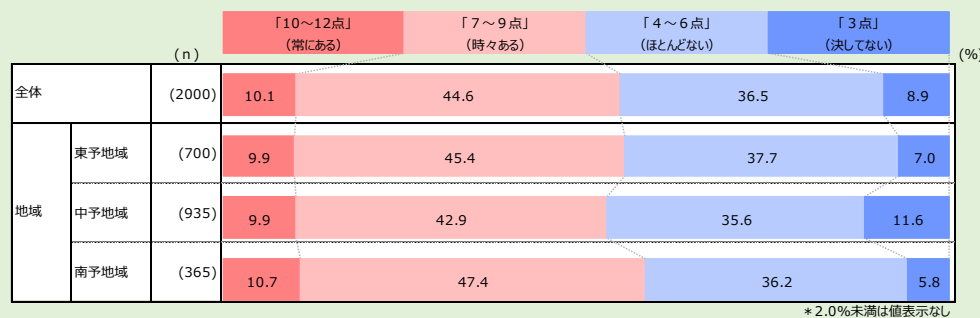
(参考) 【R3全国調査】



② 間接質問

- 間接質問の合計スコアが「10～12点」の人は**3地域で約1割**、「7～9点」は南予地域でやや高い。

【愛媛県・地域別】



(参考) 【R3全国調査】



Ⅲ. 結果の概要

■ 孤立の把握方法・状況

- 孤立については、国内の先行研究などを参考に①社会的交流（家族・友人等との交流）、②社会参加（PTA活動、ボランティア活動、スポーツ・趣味等の人と交流する活動への参加）、③社会的サポート（他者からの支援）の状況から社会的孤立の状態を把握。

①社会的交流（家族・友人等との交流）

同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが**全くない人の割合が11.5%**であった。

②社会参加（PTA活動、ボランティア活動、スポーツ・趣味等の人と交流する活動への参加）

特に参加していない人の割合が60.0%となっている。なお、参加している人については「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等を含む）」への参加を選択する割合が最も高く、**23.5%**であった。

特に参加していない人の割合が高いのは30代女性(75.7%)、40代女性(80.3%)となっている。

③社会的サポート（他者からの支援）

支援を受けていない人の割合が91.1%であった。なお、全体では、支援を受けている人の割合が2.5%であるが、男性20代以下では11.0%とその割合が高くなっている。

■ 外出頻度

- 週5日以上外出する人の割合は60.1%。一方、**外出頻度が週1日未満の人は4.4%、外出しない人は1.9%**であった。
- 地域別の割合は、**南予地域では外出頻度が週1回未満（外出しないを含む）の人の割合が1割を超えている。**

外出頻度【地域別】

		(n)	週5日以上	週3～4日程度	週1～2日程度	週1日未満	外出しない	(%)
全体		(2000)	60.1	18.4	15.4	4.4	2.4	
地域	東予地域	(700)	62.1	15.7	15.3	4.4	2.4	
	中予地域	(935)	59.6	20.6	16.0	2.6		
	南予地域	(365)	57.5	17.5	13.7	8.8	2.5	←11.3%

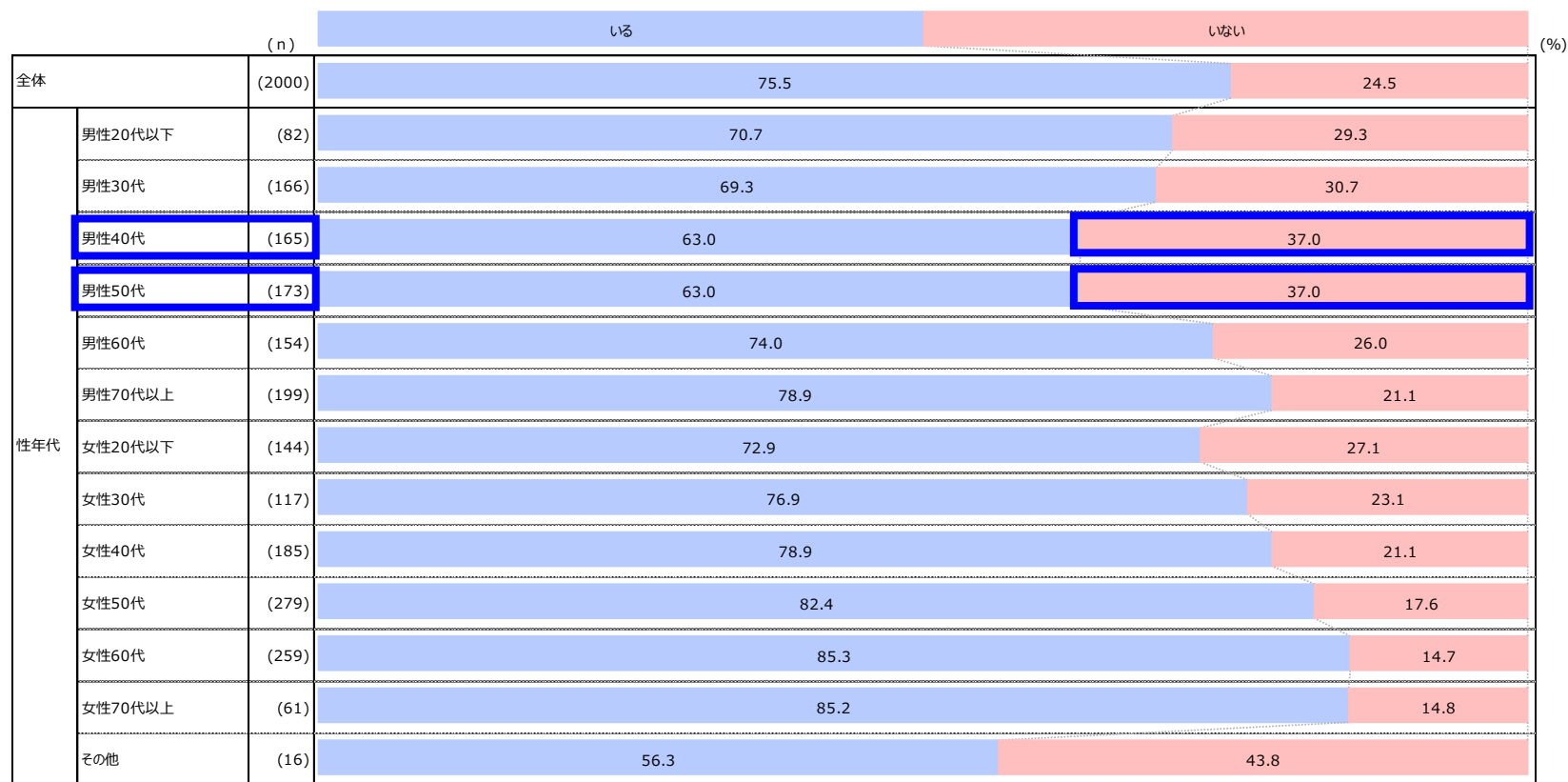
* 2.0%未満は値表示なし

Ⅲ. 結果の概要

■ 不安や悩みについて（１）相談相手の有無

- 不安や悩みの相談相手が「いる」と回答した人は75.5%、「いない」と回答した人は24.5%。
- 「いない」と回答した人を性年代別でみると、**男性40～50代が特に高い**。また、「いない」人の割合はすべての年代で男性が女性を上回る。女性の50代以上では1割台と低い傾向がみられる。

不安や悩みの相談相手の有無【性年代別】



* 2.0%未満は値表示なし

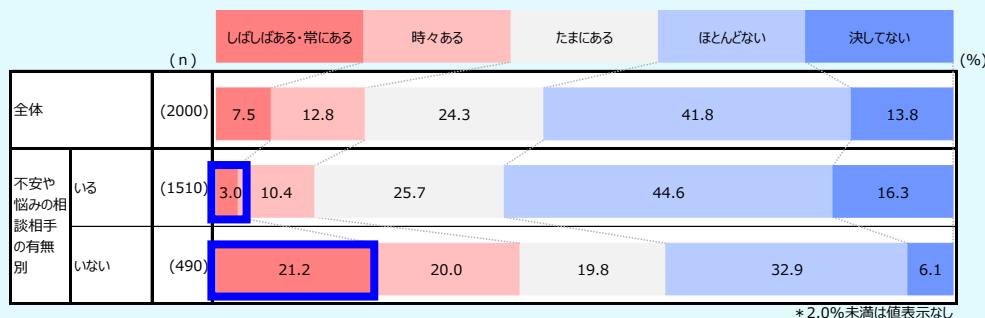
Ⅲ. 結果の概要

■ 不安や悩みについて（２）不安や悩みの相談相手の有無別孤独感

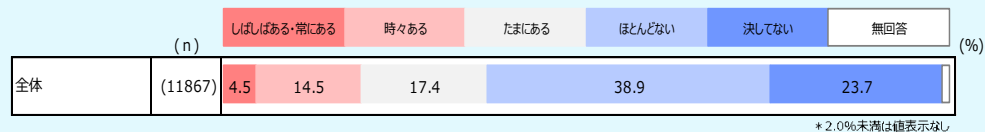
① 直接質問

- 直接質問を、不安や悩みの相談相手の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、**相談相手がいる人が3.0%、相談相手がない人が21.2%**となっている。

【愛媛県・不安や悩みの相談相手の有無別】



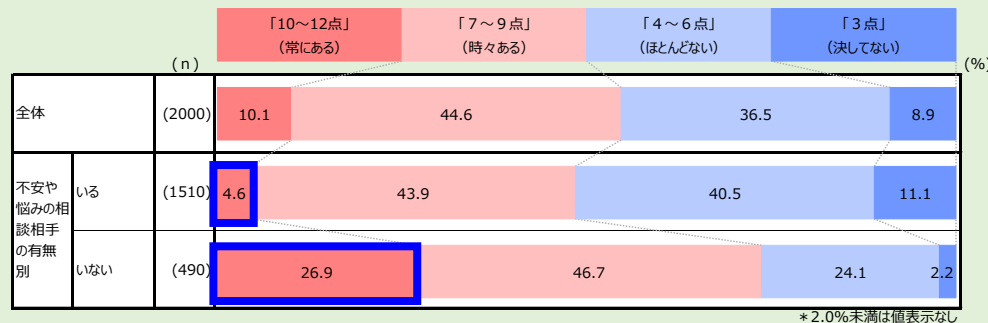
(参考) 【R3全国調査】



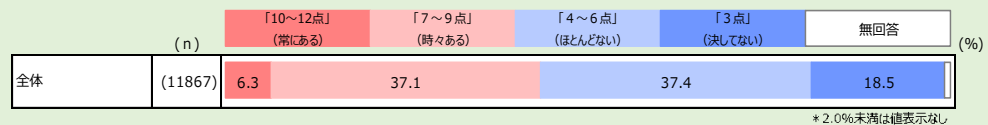
② 間接質問

- 間接質問を、不安や悩みの相談相手の有無別にみると、孤独感スコアの合計が「10～12点」の人の割合は、**相談相手がいる人が4.6%、相談相手がない人が26.9%**となっている。

【愛媛県・不安や悩みの相談相手の有無別】



(参考) 【R3全国調査】



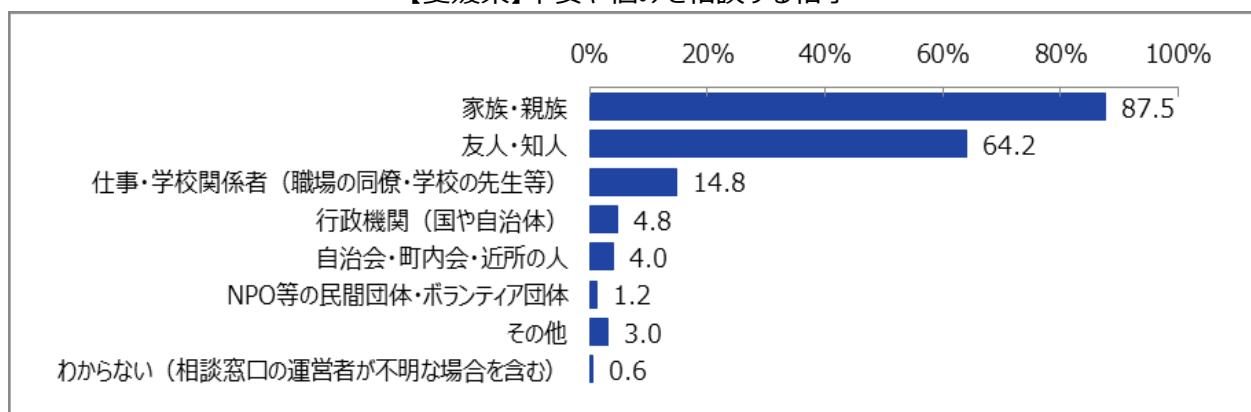
Ⅲ. 結果の概要

■ 不安や悩みについて（２）相談をする相手

- 不安や悩みの相談相手は**家族・親族（87.5%）**、**友人・知人（64.2%）**、**仕事・学校関係者（14.8%）**が多い。
- 全国調査（令和3年実施）と上位の選択肢の順は同様の傾向であるが、**家族・親族（5.5ポイント差）**、**仕事・学校関係者（7.7ポイント差）**では全国よりやや低くなっている。

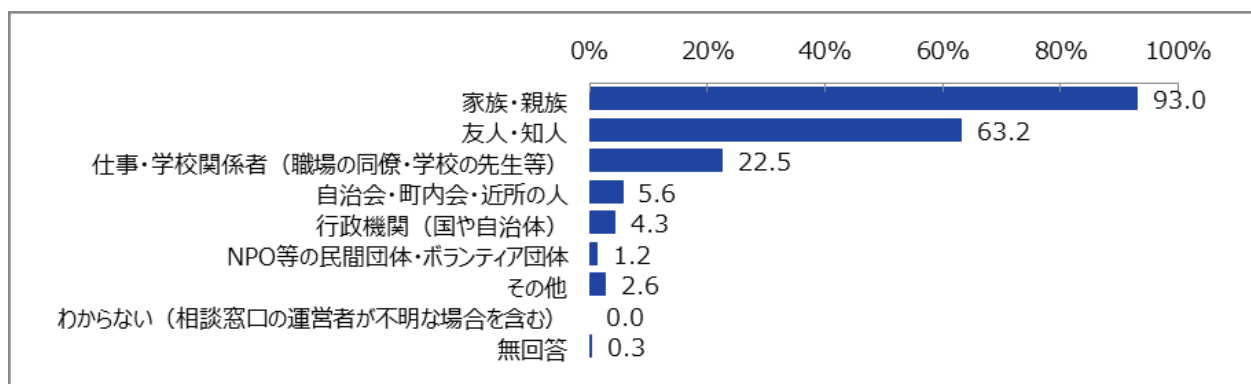
【愛媛県】不安や悩みを相談する相手

n = 1,510



【R3全国調査】不安や悩みを相談する相手

n = 10,515

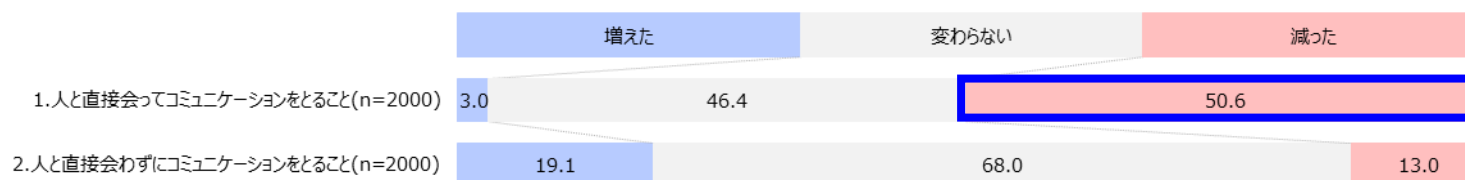


Ⅲ. 結果の概要

■ 新型コロナウイルス感染拡大の影響

- 半数以上が人と直接会ってコミュニケーションをとることが減ったと回答。
- 「地域・社会とのつながり」が悪化した※と回答した人は33.2%。 ※「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計

コロナ禍におけるコミュニケーションの変化



コロナ禍における日常生活の変化

